

(提案書 様式①)

協働の機会提案書 (継続用)	
2016 年 9 月 26 日	
印西市長 板倉 正直 様	
(登録者) 登録番号 23-004	
名 称 木下まち育て塾	
所在地 印西市木下	
代表者 伊藤 哲之 ㊞	
連絡先	
企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。	
提案事業名	印西市木下地区歴史講座
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	<p>(1)「寺子屋吉岡」は、平成 23 年 10 月 30 日に開講した市民向け歴史講座である。また、木下の歴史を学ぶと共に完全にニューアルなった吉岡家土蔵(明治 24 年建築)という、木下の歴史を今に伝える歴史的建造物の保存・活用の一環でもある。平成 24 年度より印西市との協働事業となり、この間、100 名以上の卒業生を送り出してきた。更には広く市民向け歴史講演会、バスツアー等を併せて開催し、千葉NT新住民をはじめとする市民の故郷意識の醸成に努めてきた。とりわけ近年の講演会、ツアーは極めて盛況であり、この中には少なからず卒業生が含まれている。</p> <p>(2)今回は内容及び講師たる塾生も 5 年という一区切りの段階に至っている点に鑑み、内容等を刷新しつつ、吉岡まちかど博物館にての学び、吉岡まちかど博物館という歴史的建造物の保存・活用を継続していくものとする。</p> <p>(3)印西市の人口は、平成 28 年 4 月末現在は 95,947 人(内千葉NT居住者 57,573 人・60%)、寺子屋吉岡を市との協働事業とした平成 24 年同時期は 92,179 人(52,471 人・57%)である。4 年間に全体で 3,786 人、4%の人口増を見たが、NT地区は 5,102 人、10%増、NT地区外は逆に 1,334 人、3%の減となっており、この傾向は今後も続くものと思料。これら新住民へ地域の歴史を通しての故郷意識の醸成が必要なのである。</p> <p>(4)微力とは言え、印西市の基本計画にある「地域のもつ可能性を活かした魅力あるまちをつくる」及び「健やかな心と体を育み未来を拓く、まちをつくる」に対し、当塾及び印西市が継続して行う必要性が一層求められている。</p>
提案理由	<p>(1)明治 14 年の次の新聞記事は当時の木下の占める位置が判明する興味深いものである。「(前略)茨城縣其他銚子小見川近邊の人は必ず前日瀛船に乗り(利根川通ひの川蒸氣船十艘余あり木下へ大概上陸)其夜木下へ上陸同所へ一泊して翌日歩行すること七里にして行徳新宿より亦々瀛船に乗り其日太陽ある中に出京するを得(後略)」(『千葉公報』明治 14 年 4 月 19 日)と述べ、利根川水運全盛期のこの時期、木下が下利根川並びに霞ヶ浦及び北浦沿岸諸都市と東京を結ぶ交通結節点であり、行き交う人々が多かった木下及び木下街道の繁昌振りをよく伝えている。</p> <p>(2)上記記事は、木下の歴史を理解するには利根川と江戸川を繋ぐ連水陸路たる木下街道、下利根川水運の歴史を学ぶ必要性を示唆している。木下の性格は純粋交通集落であり、街道と水運により諸都市と繋がることにより生業をたててきたという大きな特色がある。</p> <p>(3)今回は上記により木下河岸の歴史を市外から見ることにより、木下への新たな視点を得るべく市民と共に木下河岸から江戸・東京への道、木下街道及び行徳航路へと視野を拡げ、一層の理解を得ることを意図する。</p>

<p>提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)</p>	<p>寺子屋吉岡は、この間、地元、利根川水運の要衝、木下を中心に学んできた。今回は、木下について更なる理解を深めるべく、木下街道及び行徳航路に焦点をあて「木下河岸から小網町行徳河岸へ—市民と学ぶ江戸・東京への道、木下街道—」と題し</p> <p>①沿道、沿川関係8市区（印西市、白井市、鎌ヶ谷市、船橋市、市川市、江戸川区、江東区、中央区）の学芸員又は研究者の方々から吉岡まちかど博物館にて木下街道、行徳航路について学び、木下、木下街道への理解を深める。</p> <p>②木下街道、行徳航路に係る講演会を広く市民向けに開催する、又は行徳航路を体感するために市民と共に小名木川クルーズ等を行う。</p> <p>③木下街道約36kmを歩き、木下街道を体感する。</p> <p>④沿道、沿川の博物館を訪問し、更に理解を深め、交流する。</p> <p>⑤市民団体の活動ならではのものとして、沿道、沿川の市民団体と相互に交流し、木下へ誘う。（木下、木下河岸を知ってもらい、来街者を増やす）</p> <p>⑥寺子屋卒業生、受講者、木下まち育て塾及び印西市と共催により、平成31年度を目途に企画展「市民による木下街道展（仮称）」の開催を意図し、埋もれた歴史に光をあてる市民を育成し、生涯学習のきっかけを提供する。資料集、図録の刊行も視野に入れる。以上から印西市の生涯学習機能を補完する。</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット</p>	<p>(1)木下まち育て塾は「志民」の集まりである。「志民」とは「文句ばかり言っ て何もしない「私民」でもなく、カヤの外で知らないふりをし続ける「死民」 でもなく、自己責任で地域に積極的に働きかけ、自らも負担するココロザシあ る「志民」。そうした志民を集積していくことこそ、次世代へ地域の輝きを残 していく方法だ」（「志民連いちのみや」）に拠っている。</p> <p>木下まち育て塾は、江戸期から明治期にかけ利根川水運で繁栄した木下河岸 を中心に、今ではやや元気のない、印西市の中心市街地である木下・六軒を「何 とか元気にしたい」を掲げ、具体的には</p> <p>①往時の面影を今に伝える蔵・町屋の保存と活用 ②地域への愛着と誇りを醸成する歴史の調査・研究、掘起こし ③活性化へ繋ぐ市民ウォーク、市民公開講座等イベントの開催等を行っている 30代から70代のサラリーマン、主婦等多様な市民からなる平成15年3月 に結成したまちづくり市民団体である。前身は平成13年10月、印西市主催の 「木下まち育て塾」。14年8月の解散後、有志が「志」と「名」を継承した。 当塾のこれまでの実績は木下河岸の歴史紹介を兼ねた『吉岡まちかど博物館開 館10周年記念誌』（平成26年）、吉岡まちかど博物館の改修の技術史ともいえ る『蔵 吉岡まちかど博物館10年史 2004～2014』（平成27年）を参照され たい。</p> <p>(2)協働のメリットとして、印西市という行政のみでは発想、行動に限界があ るが、木下まち育て塾という多様な市民からなる市民団体との協働により、よ り大きな成果が得られる。一方、木下まち育て塾は、一弱小市民団体であり、 今回の如く多数の公共団体と連携するイベントの円滑な開催は困難である。印 西市との協働はその点を大きく補完し、円滑に企画が実施でき、市民にもメリ ットがある。</p>
<p>継続実施により 得られる効果及び今 後の展望</p>	<p>木下が銚田、小川等茨城県の霞ヶ浦及び北浦縁並びに銚子及び佐原等下利根 川の諸都市から東京への交通結節点であったことなど現在では想像すら困難 である。街道と水運で繋がる木下を理解するにはこれらを総合的に学ぶ必要が ある。これらを学ぶことにより木下、木下河岸へ新たな光を当てることができ、 一層の理解が深まるものと思料する。今回は、先ず木下に繋がる木下街道、行 徳航路を体系的に学ぶこととする。</p> <p>将来的には今回提案の木下街道から更に、水運で繋がる木下に焦点を当て、 霞ヶ浦、北浦縁の茨城県及び佐原、銚子等千葉県等の諸都市との繋がりの中 から木下、木下河岸を学んでいく構想を温めていきたい。</p> <p>上記の企画は木下街道、行徳航路、下利根川、霞ヶ浦水運の歴史を学ぶだけ ではなく、これら諸都市の市民、市民団体との交流、更にはこれらの学習を契 機に木下、木下河岸の歴史を研究する市民のきっかけともなるものである。ま ちづくりは居住地への愛着と誇りなくしてはなしえないものであり、愛着と誇 りは先ず地域の、先人の歴史を知ることである。今回の企画提案により上記の 実現に寄与したいと考える。</p>

協働事業計画書		
事業名	印西市木下地区歴史講座	
事業の目的	<p>①木下は、江戸期から明治期にかけ、木下街道という「道」、利根川という「川」に繋がることにより繁栄した都市である。今回は、多彩な講師陣から木下街道及び行徳航路を体系的に学び、木下への理解を一層深め、市民のふるさと意識醸成等に寄与させる。</p> <p>②受講生（市民）に体系的に学ぶ機会を提供し、調査研究等、生涯学習へのモチベーションを高める。</p> <p>③沿道、沿川関係市区の市民等との交流の気運醸成を図る。</p>	
市の施策の位置付け及び協働部署	<p>（施策名）文化財の保護・活用</p> <p>（部署名）生涯学習課</p>	
事業期間	平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	
事業の内容	提案者	市
	<p>○講師出講依頼調整（8名）</p> <p>○木下街道、行徳航路に係る情報収集（資・史料収集、街道下見等）</p> <p>○講座開催（8回・各回10名）</p> <p>○特別講座開催（2回）</p> <p>・夏期市民歴史講演会（60名）</p> <p>・行徳航路体感乗船イベント（30名）</p> <p>○木下街道巡検（3回・各回30名）</p> <p>・全行程約36kmを3回程度で走破し、木下街道を実地に体感する。また、途中、関係する博物館にて学ぶ。</p> <p>○木下河岸、木下街道、利根川水運の調査研究を意欲のある受講生と行う。</p> <p>○他団体との協議・調整</p>	<p>○関係市役所及び区役所への講座開催の支援</p> <p>○特別講座開催（夏期講座、行徳航路体験乗船）の支援</p> <p>○木下街道巡検の支援</p>
事業に要する経費 ※詳細については、様式③による	24,000 円	589,100 円
事業の運営体制	<p>①塾生2名を主担当に、会長以下10名程度により運営する。</p> <p>②講師は関係市区の博物館学芸員又は研究者とする。</p> <p>③印西市生涯学習課と密接な連携体制をとる。</p>	

	提案者	市民	市
協働のメリット	<p>①印西市との協働により関係市区からの信頼性が増し、企画内容の実現性が高まる。</p> <p>②活動を市内外の市民等にアピールできる。</p> <p>③吉岡まちかど博物館という歴史的建造物の保存・活用に寄与できる。</p> <p>④木下街道等の調査研究への機運が醸成できる。</p>	<p>① 沿道、沿川市区の学芸員等から直接学ぶことができる。</p> <p>②地元、木下、木下街道への理解が深まり故郷意識が醸成される。</p> <p>③木下河岸、木下街道等への市民による調査・研究意識が醸成される。また、生涯学習のきっかけとなる。</p>	<p>①市民団体の活用により、市民へよりよい企画が提供できる。</p> <p>②木下街道、行徳航路をとりあげることにより、市民に木下への理解を一層深めさせることができる。</p>
対話方法	市への月度活動報告、随時情報交換		
事業の周知や評価の方法	<p>①印西市の広報、ミニコミ誌、チラシ、ポスター、ホームページ</p> <p>②参加者へのアンケートによる。</p>		
備考	関係団体等：観光協会、印西ふるさと案内人協会		
	その他（添付書類等）「寺子屋吉岡」・チラシ		

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む）金 1,779,100 円市から団体への委託費 (金 589,100 円)

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費、交通費、報償費、印刷製本費、通信運搬費、保険料	589,100
提案者負担分	会場費	24,000
参加者負担分	資料代（500 円×200 部=100,000 円）	100,000
無償労働力等 換算金額	労働力 1,066,000 円	(1,066,000)
合 計（無償分を含 めない）		713,100
無償分を含めた 合計額		(1,779,100)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費*	1. 月例講座運営 4 時間×820 円×8 日×2 名=52,480 円 2. 夏期特別講座 4 時間×820 円×1 日×6 名=19,680 円 3. 木下街道巡検 8 時間×820 円×6 日×3 名=118,080 円 4. 行徳航路体験（小名木川等乗船体験） 8 時間×820 円×2 日×3 名=39,360 円	229,600
報償費*	1. 講師謝礼（8 人分）7,300 円×8 回=58,400 円 2. 夏期講座謝礼（1 人分）35,000 円×1 回=35,000 円	93,400
交通費*	1. 講師訪問交渉（印西市を除く 4 市 3 区）1 名分 1 回 起終点は木下駅とし、同駅から各博物館迄とする。以下同じ。 12,248 円×1 名×1 回=12,248 円 ≒12,200 円 2. 行徳航路乗船体験・博物館訪問 下見・引率（3 人分、2 回） 2,833 円×3 名×2 回=16,998 円 ≒17,000 円 日本橋からの乗船体験後、行徳河岸、中川船番所資料館、江戸川区郷土資料室見学	64,000

	<p>3. 木下街道巡検 1 (木下河岸跡～白井駅) 下見・引率 (3 人分、2 回) 白井市郷土博物館見学 1,478 円×3 名×2 回=8,868 円 ≒8,900 円</p> <p>4. 木下街道巡検 2 (白井駅～船橋法典駅) 下見・引率 (3 人分、2 回) 鎌ヶ谷市郷土博物館見学 1,688 円×3 名×2 回=10,128 円 ≒10,100 円</p> <p>5. 木下街道巡検 3 (船橋法典駅～行徳駅) 下見・引率 (3 人分、2 回) 市川歴史博物館、船橋市郷土博物館見学 2,626 円×3 名×2 回=15,756 円 ≒15,800 円</p> <p style="text-align: right;">合計 64,000 円</p>	
印刷製本費*	<p>1. A4 告知チラシ 500 部×4 回×40 円=80,000 円</p> <p>2. A3 告知ポスター 50 部×4 回×300 円=60,000 円</p> <p>3. A4 寺子屋吉岡講座案内チラシ 2,000 部×1 回×20 円=40,000 円</p>	180,000
資料作成費	200 部×500 円=100,000 円 (実費参加者負担)	100,000
通信・運搬費*	<p>1. 講師連絡@140 円×10 人×2 回=2,800 円</p> <p>2. 既卒寺子屋生連絡@82 円×100 名×1 回=8,200 円</p> <p style="text-align: right;">計 11,000 円</p>	11,000
保険料*	<p>1. 定期講座 : 1,500 円</p> <p>2. 木下街道巡検・行徳航路体験 (小名木川等乗船) 3,300 円×4 回=13,200 円</p>	14,700
会場費 (電気代他)	会場費 2,000 円×12 回=24,000 円	24,000
提案者が負担する 無償労働力	<p>4 時間×820 円×65 日×5 名=1,066,000 円</p> <p>企画立案、企画書作成、講師交渉 (9 名)、情報収集、現地調査、資料収集、調査、資料作成、定期講座受講生、木下街道巡検及び行徳乗船体験の募集案内・受付。ミニコミ誌等広報依頼等事業実施に伴う一式</p>	(1,066,000)
合 計 (無償分を含 めない)		713,100
無償分を含めた 合計額		(1,779,100)

*印は市に負担を求める項目

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活動内容	必要経費 (円)	参加人数
4月中旬	印西市学芸員講義・博物館見学	222,652	10名
5月中旬	白井市学芸員講義	21,552	10名
6月中旬	鎌ヶ谷市学芸員講義	21,552	10名
7月中旬	船橋市学芸員講義	21,552	10名
8月中旬	夏期市民歴史講座(講師未定)	62,372	60名
9月中旬	市川市学芸員講義	21,552	10名
10月中旬	江戸川区学芸員講義	21,552	10名
11月上旬	行徳航路乗船体験・博物館見学	67,352	30名
11月中旬	深川東京モダン館学芸員講義	21,552	10名
12月中旬	中央区京橋図書館司書講義	21,552	10名
1月中旬	木下街道巡検1・博物館見学	59,252	30名
2月中旬	木下街道巡検2・博物館見学	60,452	30名
3月中旬	木下街道巡検3・博物館見学	66,152	30名
	合計	713,100	延べ260名

注：印刷費、交通費の一部、保険料及び通信費は講座開始月に計上した。

別紙

企画提案型協働事業 印西市木下地区歴史講座
平成28年度最終審査 委員会総合意見

- 1 まちの歴史継承、地域の文化振興に貢献する貴重な事業です。活動の効果を高める新たな取り組みにも期待します。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

成果指向で

- ・事業提案は歴史講座ではない。協働事業の必要性、効果を明確に説明できるようにしてほしい。
- ・歴史を学んだことによる効果を意識した事業にしてください。
- ・講座を聞いて、果してどれだけの方が自分の地域に愛着を持つのか疑問。
- ・地域社会が抱える課題として新旧地区の融合をテーマとしているが、現状効果は稀薄である。

偏ってはダメ

- ・講座のジャンルを広げて、興味のある人を増やしていくことも必要だと思います。
- ・歴史マニアの集まりとしか思えない。
- ・昨年から大きく変っていて評価できます。但し、次のステップとして他の歴史研究との関連もありますが、講座内容を少し広くとらえて、動員数拡大をおねがいます。

しっかり集客

- ・これまでの内容から一步ふみこんだ企画に進んだことは一定の評価ができる。一方参加者が広がることも重要で、集客には十分留意していただきたい。
- ・今までの提案内容を刷新され、体験型を取り入れることは、とても興味のもてるものと思われる。
- ・木下地区だけでなく、活動範囲が広がることで新しい参加者も増加する期待ももてるので、広く告知の方法を考えることが必要と思う。
- ・講座内容を刷新されるとのことですので、会場の広さの為の制約はあるかもしれませんが、受講者数の増や受け手の裾野が広がるように、企画の広報や活動実績のアピールの仕方等、工夫を重ねていただきたいと思います。
- ・活動としては評価される内容であるが、課題としているNT地区住民への故郷意識の醸成という面では、対象としている市民や対象が限られているように思われる。市と協働で、講座や活動内容が多くの人に伝えられるような広報や、活動範囲（対象市民）の拡大を検討して頂きたい。

事業をさらに一工夫

- ・地域の歴史講座開催事業を継続されることは、企画内容のマンネリ化、参加者数減少、固定化との闘いだと思います。これまでの受講生、塾生を人的資源として事業発展のための試みを大胆に続けてください。
- ・団体の自主事業として（ボランティアガイド）展開していくことも検討してはどうか。

- ・経費が少々かかるように思うので、もう一度、見直す必要があると思う。

結果が楽しみ

- ・地元の歴史を知るということは、地元への愛着心、誇りに繋がると思います。地元活性化に向けて、幅広い活動を続けて頂きたいと思います。
- ・江戸から明治にかけて木下街道という「道」と利根川という「川」の両面によって発展した木下という都市を、今回は一層市民に知らしめる講座内容になっていて、広がりを感じます。